

取組名称	荒れた山林を児童養護施設の子どもたちとともに伐り拓き、里山の恵みを生かしてふるさとを自らの力で創り上げる活動				
応募取組主体名称	NPO法人 東京里山開拓団	活動地域	東京都	活動年数	11年
取組主体の種類	企業 / 学校 / NPO・任意団体 / 自治体 / 地域コミュニティ / 個人 / その他				
テーマの種別	サステナブルデザイン / 子どもと親子のエコ未来 / エシカル / 環境と福祉 / 環境地域ブランディング / 森里川海 / 環境社会イノベーション / 環境アート&デザイン / SDGsビジネス / その他				



取組の要旨	<p>東京周辺にもあふれる荒れた山林の再生にあつて、虐待や貧困などから親から離れて暮らす児童養護施設の子どもたちとともに手作業で伐り拓きつつ自然の恵みを生かしてふるさとを自ら作り上げる取組み。厚労省表彰など里山保全と児童福祉の一石二鳥の活動として注目される。企業向け里山研修事業や日本の里山紹介サイト運営にも取組んで、施設退所者の自立支援、寄付・助成に頼らない運営モデルづくりも推進中。</p>
実績の要旨	<p>3つの児童養護施設との里山開拓は8年で60回、のべ350名を超える子どもたちが参加。数十年放置され入る人もなかった山林は子どもたちは「家みたいなところ」「自由な世界」(児童)、「いつか里山を児童養護施設にしたい」(職員)というほど魅力的な里山に変わる。2019年にSCSK(株)向けに里山研修を開催。「日本ノ里山ヲ鳥瞰スル」サイトに掲載する里山件数は全国随一の約1000件に。</p>

取組評価の要旨	環境への貢献	数十年放置され地主も地元の方も入らなかった山林が、誰もが通いたくなる心地よい里山として再生
	社会・経済への貢献	児童の虐待や貧困における心のケア、継続支援の課題に対し、お金を掛けなくとも自然とボランティアのチカラで解決する方法を提示
	地域資源の活用	地主も地元も無関心だった荒れた山林という地域資源を活用し、現代都市社会の社会課題克服に直接貢献できることを実証
	普及・汎用性	荒れた山林も児童の虐待・貧困も全国で問題となっており、本活動を横展開できるよう自立運営モデルづくりとマニュアル整備、広報活動を推進中
	革新・ユニーク性	環境保全と児童福祉の一石二鳥。支援する人/される人の壁がない。里山のチカラを生かし寄付や助成に頼らないNPO運営モデルを志向
	継続性	継続には本活動への児童養護施設と山林地主の深い理解と協力が不可欠なため、職員との研修合宿や代表による山林取得などで連携強化

展望の要旨	児童養護施設との里山開拓を継続しつつ、企業向け里山研修事業立上げ、全国の里山紹介サイト運営も推進し、荒れた山林の社会的活用を全国に展開！
-------	--

①概要情報

- ・会員は東京周辺在住の会社員、主婦、学生など本部に20名、学生支部に20名所属。
- ・八王子の里山にてほぼ月1回開催する「児童養護施設との里山開拓」を活動の柱として、準備会議、研修合宿、活動報告会、入会説明会、講演活動などを実施。
- ・新たな取り組みとして企業向け里山研修事業、全国の里山紹介サイト「日本ノ里山ヲ鳥瞰スル」運営を開始。

②沿革

- ・2006年、アウトドア趣味が高じた堀崎が個人で八王子の荒れた山林開拓を開始
- ・無心になって開拓作業をしていると心のもやもやがずっと晴れていくのを感じ、また行政、専門家、業者任せでは一向に解決しない社会課題に対して何ができるか考えた末、2009年東京里山開拓団を発足
- ・2012年に救世軍機恵子寮と里山開拓を初実施。以降、3つの施設と合計60回実施、のべ350名の児童が参加
- ・2017年NPO法人化、2019年学生支部発足

③受賞歴

- ・厚生労働省・子ども家庭局長賞（健康寿命をのばそう！アワード）
- ・毎日新聞社・エクセレントNPO大賞ノミネート表彰
- ・東京キワニスクラブ・社会公益賞

④その他

- ・林野庁、東京都、セブンイレブン、東京ガス、SCSKから助成・寄付





■ 児童養護施設との里山開拓

3つの児童養護施設から子どもたち・職員、東京里山開拓団会員（合計15~20名）がほぼ毎月1回八王子市美山町の荒れた山林に通う。山道や広場の整備、トイレ、かまど、アスレチック、ツリーハウスの制作、四季の自然を生かしたイベント、焚火料理づくり、自由時間など。かつて望むべくもなかった「ふるさと」を自らの手で創り上げようと奮闘中。

■ 児童養護施設との交流

◇**里山スライド上映会**（年1回）：過去の里山開拓写真を、たくさん子どもたち、職員の前で上映。

◇**施設職員との里山研修合宿**（年1、2回）：職員、会員の参加する里山現場研修。子どもたちにとっての里山開拓の意義について理解を深め、内容や進め方の改善を検討。

◇**学生支部による施設訪問**（月2回）：直接施設訪問を行い、子どもたちとの遊びやおしゃべりを通じて日常生活面での心のケアと里山への動機づけを推進。



■ さらなる活動展開に向けた活動

◇**企業向け里山研修事業**：上記活動費を捻出するための自主事業。寄付や助成に頼らない運営、施設退所者の雇用による自立支援も推進。

◇**全国の里山紹介サイト「日本ノ里山ヲ鳥瞰スル」運営**：垂れ流されている里山関連ニュースを地図上に集約することで身近な里山を探せるサイトとして運営。現在約1000件と全国最多、唯一無二の存在。将来は荒れた山林を発掘・活用促進する情報基盤を目指す。

◇**広報活動**：大学などで講演、新聞・雑誌の取材対応、活動報告会・説明会の開催など。





里山のシンボル、ツリーハウスは
子どもたちとアイデアを出し合って
間伐材ですべて手作り！
台風で吹き飛ばすが再建中！

子どもたちがはまるのは、大人が用意した
自然遊びなんかより開拓作業！
大人たちも大都会に暮らしながら
大自然を満喫！



自動カメラで10年にわたって定点観察。大都会の隣で
生き抜くシカ、サル、イノシシ、ツチブタ、タヌキ、アナグマ
等の生態を子どもたちと共有し、自然との共生を模索！

現代都市社会のひずみは弱いところで顕在化 莫大な予算を投じてでも縦割りの行政、専門家、業者任せでは解決できず

荒れたまま放置された山林



- ・林業崩壊、所有者不明で無管理
- ・獣害、土砂崩れの被害深刻
- ・環境活動の途中放棄でゴミの山
- ・土砂採取・産廃場化で山林崩壊

子どもの虐待・貧困



- ・分析診断、日常支援、ハコモノ整備ばかりでは「心のケア」に至らず
- ・18歳で児童養護施設退所後は放任、自己責任

環境保全

一石二鳥！

児童福祉

児童養護施設との里山開拓

児童養護施設の子もたちと荒れた山林を伐り拓き
自然の恵みを生かして、ふるさとを自ら創り上げる

①環境面への貢献：
荒れ果てて入ることのできなかつた山林が、誰もが通いたくなる心地よい里山として再生



②社会への貢献：
お金をかけなくとも自然とボランティアのチカラで、心のケアと退所後支援を実現する方法を提示

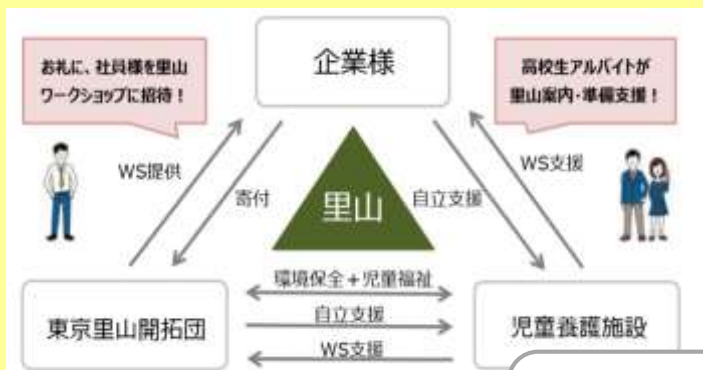
③地域資源の活用：地主も地元も無関心だった荒れた山林という地域資源に着目し、現代都市社会の課題克服に直接貢献できることを実証

④普及・汎用性：本活動を全国に横展開できるよう、自立運営モデルづくり、リーダー育成研修、大学講演・マスコミ広報、情報コミュニティづくりを推進中

⑤革新・ユニーク性：
★環境保全と児童福祉の一石二鳥
★支援する人／される人の壁がない進め方
★寄付や助成に頼らないNPO運営モデル志向

⑥継続性：
施設職員との研修合宿や代表による山林買取などで施設や地主との関係強化、里山開拓リーダー育成

企業向け里山研修事業



『里山付き児童養護施設』等
荒れた山林の社会的活用を
寄付・助成に頼らない
NPO運営モデルで全国展開！

開拓した里山を活用した
自主事業を立上げ！

全国の荒れた山林を
活用する情報基盤づくり！

いつでも戻れるふるさと
として里山開拓を継続！



全国の里山紹介サイト運営

